

地域の人たちとのかかわり合いを通した心豊かな生徒の育成

－ 地域との交流を生かした人づくり・町づくり －

一宮市立浅井中学校

1 実践のねらい

- (1) 本校の教育活動に地域の人材を招き、地域と共にある学校という視点から教育活動を見直すことで、本校教育目標である「心豊かでたくましい生徒の育成」を図る活動の充実に努める。
- (2) 地域の行事に生徒をボランティアとして積極的に参加させたり、保護者や地域の方に本校の教育活動に参加いただいたりすることで、地域に関心をもった生徒の育成を図る。また、家庭・地域と手を携えた開かれた学校づくりに努める。

2 実践の内容

(1) 学校運営協議会による学校教育活動の見直し

本校では、学校運営協議会を設置し、教育目標や教育計画を保護者や地域代表の方に検討いただいている。例えば、学校運営協議会委員に、修学旅行の内容の検討や業者選定にも関わっていただき、教員とは別の視点からの意見をいただいている。また、委員の提言から「携帯電話アンケート」を実施し、アンケート結果を生かした情報モラル教育の進め方について学校運営協議会で検討し、保護者対象の研修会を実施した。

(2) 保護者や地域の方の教育活動への参加

保護者や地域の方が本校の教育活動に参加する活動を『絆プロジェクト』と名付けている。具体的な活動例としては、年2回の読書週間に、保護者や地域の読み聞かせボランティアグループを招いて、朝読書の時間に読み聞かせを行っている。また、1年生の『職業人と語る会』では、浅井町内の看護師、薬剤師、会社員、自営業者などの方を講師として呼び出して自分の職業について語っていただいた。



読み聞かせボランティア



職業人と語る会

(3) 地域行事での生徒ボランティア

生徒と地域の方との絆を深めるとともに、生徒が地域のために進んで貢献しようとする気持ちを高めるために、学校が窓口となって地域行事への生徒ボランティアを募り、希望した生徒が参加している。生徒がボランティアとして参加した行事は、右の表のとおりである。

生徒がボランティアとして参加した地域行事一覧

行事名	月日	ボランティア 生徒数
児童福祉大会	5月12日	34名
ふれあい盆踊り大会	7月14日	18名
浅井町文化祭	11月 3日	42名
親子もちつき大会	12月 8日	46名

ボランティア生徒たちの活躍ぶりに、地域の方々から多くの称賛が寄せられた。また、生徒もこれらの行事の運営に協力する中で、地域の方との絆を深めるとともに、自己有用感を抱くことができた。



ふれあい盆踊り大会



浅井町文化祭



親子もちつき大会

(4) 浅井中絆プロジェクト代表者会議

保護者代表、地域代表、学校代表、生徒代表が一堂に会し、地域との交流を生かした諸活動を振り返りながら意見交換をする、「浅井中絆プロジェクト代表者会議」を年2回行っている。1月に実施した会議では、生徒代表たちが、地域で取り組むあいさつ運動にボランティアとして参加した感想や、「今後も地域の様々な活動に積極的に協力したい」という前向きな気持ちを伝えた。地域代表の方たちからは、「双方向の様々な活動を通して中学生と交流し、学校のことや中学生のことがこれまで以上に深く理解できうれしかった」という思いや、「今後も地域の宝である中学生とともに地域を盛り立ていきたい」という願いを伝えていただいた。なお、会議で話し合われたことは、学校のホームページや「浅井きずなたより」を通して町内の全ての家庭へも広報した。



絆プロジェクト代表者会議

(5) 学校教育活動を支える組織「学校を支援する会」

本校が取り組んできた『絆プロジェクト』を支えていただけたのは「学校を支援する会」である。この「学校を支援する会」では、これまでに校内環境整備や学校行事の準備・片づけ、校区内パトロールなどの活動を行ってきた。その活動をさらに発展させ、保護者や地域の方と取り組んできたのが『絆プロジェクト』である。

「学校を支援する会」は生徒の地域行事へのボランティア参加のコーディネート役を担っていただいたり、地域人材の募集の窓口になっていただいたりした。



校区内パトロールの様子

3 実践の成果や課題

生徒が地域に出向いて協力する活動、保護者や地域の方が校内の教育活動に協力する活動を積み重ねていく中で、生徒たちの「地域のために貢献したい」という気持ちが高まってきていると感じている。実際、地域行事へのボランティアに応募する生徒の数が次第に増えてきており、応募希望が多すぎ、辞退してもらうこともあった。また、保護者や地域の方についても、「環境整備ボランティア」や「学校行事支援ボランティア」に積極的に協力してくださる方が増え続けている。今後は、今年度新たに立ち上げた保護者代表、地域代表、学校代表、生徒代表による「絆プロジェクト会議」のもち方を検討し、会議で話し合われた内容が絆づくりの諸活動に生かされるように工夫して、家庭・地域と手を携えた双方向の絆をより深めていきたい。